

札幌稲雲高等学校

札幌稲雲高校は、昭和59年に開校した、比較的新しい学校です。手稲区と石狩湾を一望できる手稲山のふもとに位置し、そこからの景色は函館の百万ドルの夜景に優るとも劣らないほどで、他の高校の人たちでは体験できない素晴らしい景色があります。

わたしたちの高校では、校外活動の一環として、さまざまなボランティア活動を行っており、その一つに生徒会執行部が自主的に企画する「手稲ロータス・あんじゅ訪問活動」があります。



▲運動部員で合唱もしました

これは学校近隣にある特別養護老人ホーム「手稲ロータス」

ス」と介護老人保健施設「手稲あんじゅ」を訪問し、交流を行う活動です。



▲少し緊張？

この取り組みは十数年前から毎年定期的に行われており、今では札幌稲雲高校の恒例行事となっています。平成18年度も、募集に応じてくれた有志生徒や部活動生徒と共に、11月4日に両施設を訪問しました。



▲吹奏楽を熱心に聴いてくれました

交流会の準備については、生徒会執行部が中心となり、先生や施設の職員の方と打ち合いました。そして、高齢者の皆さんに楽しんでもらえることを第一に考えた企画となりました。当日参加した有志生徒は24人、部活動生徒は吹奏楽団59人、女子テニス部12人で、「手稲ロータス」、続いて「手稲あんじゅ」を訪問しました。

当日は、女子テニス部のリーダーと歌による「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」の演奏、この春の全国大会への出場が決まっている吹奏楽団の「ふると」 「赤とんぼ」の演奏を聴いていただきました。



▲日頃の練習の成果を披露します

さらに、会場まで移動できない方のために、各部が部屋を訪れての演奏も行いました。

演奏の後には「楽しかった」「来年もぜひ来てほしい」などといった声を多くいただき、大変うれしく思いました。

札幌稲雲高校では、この活動のほかにも、毎年行われる「手稲わいわいひろば」(手稲区役所主催)に企画・運営ボランティアとして参加しています。また、障がいを持つ方たちの海水浴(ライオンズクラブ主催)の支援ボランティアや、ハンディキャップスキー大会の手伝いに参加する時には、毎回20〜50人もの協力者が集まります。

このように、わたしたち札幌稲雲高校の生徒は、地域の皆さんと一緒に活動させていただいています。実際の社会に触れ、また、多くの方に支えられ、見守っていただくことで、自分たち自身をも大きく成長させることができていると思います。校訓である「真心―賢く、強く、優しく―」をさらに実践できるよう、これからもいろいろな活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

広告欄